

2014/06/12 M.O.

Katagiri, K. (1999). Repetition, Filled-Pause, Pause, and Correction as an Indication of Speech Planning and Execution Processes Among Japanese EFL Learners. *KATE Bulletin*, 13, 101-112.

## 1. INTRODUCTION

- L2 のスピーキングシステムの心理的・認知的な過程を、実験に基づいて調査した研究はこれまで少ない。
- スピーチ中に産出されたエラーの研究は、心理学の分野で、言語のプランニングや産出を研究する手段としてよく用いられている。

⇒本研究は日本人英語学習者の心的プロセスを、「くり返し」「間繋ぎ」「間」「自己訂正」の分析を通して調査しようと試みるものである。

## 2. REVIEW

- Katagiri (1997) :  
Levelt(1989)に基づいた、プランニングと産出のプロセスを表すモデルを作成
  - 1) conceptualizing [発言が計画される]
  - 2) formulating [発言が語彙、文法、音韻コード化される]
  - 3) buffering [形成された発話が発音の前に一時的に短期記憶にストックされる]
  - 4) articulating [発言が発話(調音?)される]
  - 5) monitoring [耳で発言をチェックする]
  
- Wiese (1984) :  
16人の英語母語話者と16人のドイツ語母語話者に、提示した漫画を口頭で説明させ、その発話を【①ためらい ②時間の変数(発話の速度、発音の速度、ポーズの長さ、ひと続きの発話の長さ)】によって分析。  
⇒L1とL2の言語産出のあいだには、質的というよりむしろ量的な違いしかないとし、L2の産出が違っているという必然的な結果を示す証拠はないと結論づけている。
  
- Fathman (1980) :  
25人の韓国人、50人のスペイン人の子ども(8~11歳、アメリカの学校)に、見せられている絵について15分間口頭で質問し、説明させる  
【くり返し】
  - 1) 98%の繰り返しが正確な発話中に起こった
  - 2) 繰り返しは1語か2語のみ、発話全体が繰り返されることはなかった  
例: "then he... then he started to cry"

- 3) ポーズは繰り返しの前に起こった  
例：“I have...(pause)..., I have 4 sisters”
- 4) 90%の繰り返しは発話開始部分に起こった
- 5) 繰り返しは機能語のあと、内容語(?)の前に起こった  
例：“the..., the little boy sit”

#### 【自己訂正】

自己訂正は5グループに分けられた

⇒ I 音韻論的 II 形態論的 III 統語的 IV 意味論的 V 語彙的

訂正の方法はさらに4グループに分けられた

⇒ i 省略 ii 追加 iii 代用/置き換え iv 順序付け

#### 【結論】

1. 繰り返しは次の発話のための時間稼ぎである。
2. L2の発話の心的プロセスにおいて、トピックや発話の統語的構築が最初に選択され、語彙の選択は後になり、L2スピーカーは発話を不十分に計画したままおこなう。
3. L2スピーカーは実際の発話を常にモニタリングしている。

### 3. RESEACH DESIGN

- ・ 15人の協力者：18～25歳、ESSに所属する東京学芸大の学生
- ・ 短い日本語のパッセージと、日本語での説明が印刷されたシートを各々に配布
- ・ TVリポーターのように、パッセージの内容を2分30秒以内でビデオに向かってリポートする。
- ・ 録画の前に5分間パッセージを読む時間が与えられる。
- ・ 協力者には1回目は練習、2回目が本番としたが、研究では1回目を分析対象とした。
- ・ 発話を書き起こすときは、くり返し、間繋ぎ、間、自己訂正にタグをつけた。

### 4. RESULTS AND DISCUSSION

#### (1) Repetitions

- 93%が正しい発話（発音）のくり返し
- 86%の繰り返しが1、2語で、繰り返しのあとに完成した分が続く  
⇒繰り返しは文章を考えるための時間稼ぎ
- 96%の繰り返しが文中で起こった  
←時間稼ぎのための繰り返しは文中のどこでも起こりうる  
⇒第二言語学習者は発話を詳細に組み立てる前に発話を開始すると推察できる

#### (2) Filled-Pauses

- 84%の filled-pauses が文頭ではなく文中で起こった。

(3) Pauses

- Repetitions や filled-pauses、自己訂正に比べてかなり少なかった  
←おそらくコミュニケーションの崩壊を防ぐため？
- 85%の pauses が文頭ではなく文中で起こった。

(4) Self-Initiated Corrections

- 95%が文中で起こった。
- L2 スピーカーは発話と同時に自らの発話をモニタリングしていると推測できる
- 語彙的な代用／置き換えの自己訂正が明らかに多かった。  
⇒Fathman(1980)の、意味的（トピック選択や概念）・統語的プランニングは正確な語彙選択の前に行われている という結果と酷似している。

Table 5-4

Type of Correction	Omission	Addition	Substitution/ replacement	Re-ordering
Phonological	0 (0%)	0 (0%)	2 (2.7%)	0 (0%)
Morphological	0 (0%)	0 (0%)	8 (10.8%)	0 (0%)
Syntactic	0 (0%)	1 (1.4%)	2 (2.7%)	0 (0%)
Semantic	0 (0%)	0 (0%)	3 (4.1%)	0 (0%)
Lexical	1 (1.4%)	6 (8.1%)	51 (68.9%)	0 (0%)

Table 6 Examples of Self-Initiated Corrections

---

**Type I Phonological Changes**

and he was caught ⇒ caught in a traffic jam.

**Type II Morphological Changes**

a letter from his aunt, who live in ⇒ who lives in Hokkaido.

**Type III Syntactic Changes**

and she never been ⇒ have been ⇒ she have never been to Tokyo.

**Type IV Changes in Meaning of Utterance**

but since it was ⇒ since he just received his driver's license

**Type V Changes in Words Used**

He just nearly got a license ⇒ driver's license

---

## 5. IMPLICATIONS AND FUTURE RESEARCH

- より直接的にL2のスピーキング・プロセスの解明にアプローチする手段が求められる。
- 発話の熟達度の低い学習者は詳細に構築された文章でないと発話を開始できないため、熟達度の低い学習者を対象とする必要がある。
- pausing や filled-pausing の定義や、self-correction の分類は個人的な尺度に頼ってしまうので、複数人の評価者で分析を行う必要がある。

## 6. CONCLUSION

- 84%~96%のくり返し、ポーズ、自己訂正は文中どこにでも出現した。
  - 統語的な自己訂正は非常に少なく、語彙の自己修正が70%を占めていた。
  - 自己訂正は代用や置き換えが明らかに多かった。
- ⇒上記すべて Fathman が英語とスペイン語を母語とする子どもについて述べた結果と一致した。

これらの結果は

- 意味的・統語的なプランニングが、正確な語彙の選択より前におこなわれること
- L2 スピーカーは文章を詳細に組み立てる前に発話を開始すること
- L2 スピーカーは発話をしながら自らの発話を編集すること
- L2 スピーカーは発話をしながら自らの発話をモニタリングしていること

を示唆しているが、今後の研究では結論のまえに、多様な発話の熟達レベルの被験者を用いることが必要である。

## APPENDIX 1

本日は、お忙しいところわざわざお集まり下さりありがとうございます。

本日ご協力していただきたいことは、以下の欄に書かれている話しを、英語で伝えて欲しいということです。

ニュースキャスターになったつもりで、カメラに向かってはっきりと堂々と伝えてください。逐語訳ではなく、いかに多くの詳しい情報を的確に伝えるかが問題です。ので下の内容の流れなどは自分自分でアレンジ(変更)して下さって構いません。あくまでも、通訳ではなく、いかに効果的にわかりやすく他の人々に下の内容を英語で伝えるかが今回のテーマです。

スピーチ時間は一人2分30秒以内です。1回目練習撮り、2回目日本番撮りを行います。予め、メモを取っても構いません。

終了後は、差し入れのお菓子・飲み物でおくつろぎください。

それでは、5分後に「英語でのレポート」収録を始めます。よろしくお願いします。

北海道に住む<sup>なつし</sup>武史の叔母は東京に来たことがなかった。

彼女が武史にその日に飛行機で上京するという便りをくれたので、武史は車で空港まで出迎えに行った。

武史は今年19歳・大学1年生で、自動車の免許を取ったばかり。車は自宅の父親の車を借りていったが、まだ道になれないせいもあり、交通渋滞に巻き込まれ遅れてしまった。

武史が空港に到着したときには、あらかじめ二人で決めておいた待ち合わせ場所にはもう叔母の姿はなかった。

困ってしまった武史は、とりあえず、自宅に電話した。すると、武史の母親がでて、「叔母はもう空港からバスに乗って武史の家に向かっている。」とのことだった。それを聞いて、ガックリする武史であった。

## APPENDIX 2

### An Example of the Analyses for Repetitions, Filled-Pauses, Pauses, and Self-Corrections

Speaker A (male)

The Grandmother of Takeshi lives in Hokkaido, but <rep> she never been to, she never been to </rep> Tokyo before. One day, Takeshi got the letter from her that she will come to Tokyo <rep> by, by </rep> airplane. So Takeshi decided to go to airport in order to pick her up. Takeshi is nineteen years old this year, he is a fresh man <rep> of, of </rep> university students. It was not so long before, after he got driving license. <rep> He usually u... , he usually </rep> use, <fil> uh, </fil>, his father's car, so <cor> he is not, he was not </cor> familiar with the road <rep> around hii..., around </rep> him, and around his home. <fil> Uh, </fil>, so, <fil> uh, </fil>, <pause> on the way to the airport, <rep> he met that <fil> uh, </fil>, he met </rep> traffic jam, so he was late <cor> to go to, to get to </cor> airport. Takeshi and grandmother, <fil> uh, </fil>, <rep> decided the place <cor> in..., to, </cor> <fil> uh, </fil> decided to </rep> the place together at the airport, but when <rep> he, he </rep> arrived at the airport, he couldn't find her. So, he called his house and his mother, Takeshi's mother answered the call. He, and she said, <fil> uh, </fil>, <cor> Takeshi's grandmother, <fil> uh, </fil>, his grandmother </cor> is coming from the airport by bus. Then <cor> Takeshi was, Takeshi's effort was </cor> in vein.